



# Risk Flash No.70 (Vol.3 No.8)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1

TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 研究紹介：日韓広域連合 地方のスクラムで競争力・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 今週の論文紹介：甲斐国造の系譜に関する一考察・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2
- 教員紹介：酒井泰弘・リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・Page 3

先週より、リスク研究センターで進めている共同研究の内容についてご紹介していますが、今回は、2012年5月23日付け朝日新聞「私の視点」に掲載されました本学金秉基准教授執筆記事「日韓広域連合 地方のスクラムで競争力」を、朝日新聞社の許可を得て、原文のまま掲載させていただきます。

## 研究紹介

### 日韓広域連合 地方のスクラムで競争力

きむ びよんき  
経済学科准教授 金 秉基

3月末、大阪、京都、滋賀、兵庫など7府県でつくる関西広域連合と、韓国の大慶圏広域連合（大邱市、慶尚北道）が、産業振興や環境保全での国際協力協定を結んだ。

この協定は大邱市出身の私が昨年、大慶圏広域連合から依頼を受け、滋賀大学のリスク研究センターが仲介して実現した。環境ビジネスの展示会などを通じて産業振興を図るほか、飲料水の水源である琵琶湖、大慶圏の洛東江の水質管理や生態系保護に関する共同研究も進める。

日本と韓国は様々な課題を抱え、国家レベルの交渉は合意に至らないものが少なくない。その点、地方レベルの交渉は地域の発展を優先するためか、比較的容易に進むケースが多い。日韓で地域の提携が目立つゆえんだ。

今回、韓国側の母体となる大慶圏広域連合は、韓国で7カ所ある広域経済圏の一つ。韓国の東部にあり繊維、ITやロボット産業が盛んだ。仏国寺や石窟庵（せつくつあん）などの世界文化遺産に恵まれ、観光産業も発達している。

グローバル時代の国際競争力は地域の発展で高まると、韓国政府が進めた広域経済圏形成の一環で発足したが、近年は首都圏への一極集中で人口や地域の総生産が減少。地域活性化を目指して日本との提携を模索し、関西広域連合との協定にこぎ着けた。

ふたつの広域連合は、産業構造はもとより、域内に文化遺産がある点も共通で協力をしやすい。両連合の間には日本海をはさみ韓国側に蔚珍、月城の両原子力発電所、日本側には敦賀、美浜、大飯、高浜（いずれも福井県）が存在し、国際協力協定があれば、万一原発事故が起きた際に情報の交換や迅速な対応をとることも期待できる。

グローバル化が進み、国際交流や競争の主体は中央政府から地方自治体へと移りつつある。交流の中身も地方の特色に合わせて多岐にわたる。グローバル化とローカル化が同時に進むグローバル時代の広域経済圏は、競争相手かつ、生き残りを図るための協力相手といえる。

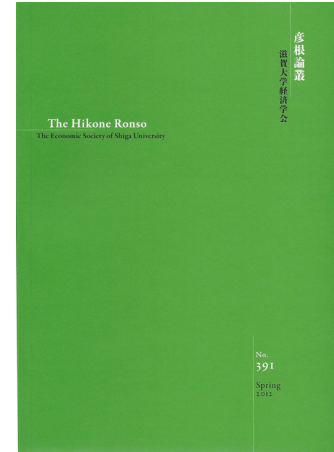
例えば2010年に韓国の東南圏と業務提携した九州は、地元の企業が省エネ技術や環境技術を韓国企業に売り込む一方、供給不足の自動車部品を韓国企業に補完させようとしている。地域の強みは積極的に売り込み、弱みは相手地域の企業で補完する。そんな地域間の活発な交流が、ひいては国家の交流を拡大することに期待したい。

## 今週の論文紹介

### 甲斐国造の系譜に関する一考察

著者：経済学部特任准教授 すずき まさのぶ 鈴木正信

収録：彦根論叢 391、184-193 頁、2012 年



#### 概要：

本稿では、古代の甲斐国（現在の山梨県）に本拠を構え、この地域を支配した甲斐国造の存在形態を考察しました。筆者は以前、「甲斐国造の「氏姓」に関する再検討」（『日本史研究』584号、2011年4月）を發表しており、本稿はその続編です。国造とは、およそ6～7世紀にかけて、ヤマト王権が全国の地域支配のために設置した地方官であり、各地域の豪族が任命されました。これまでの研究では、かつて甲斐地域にはヤマト王権に匹敵する強大な勢力が存在していましたが、のちに国造が設置されたことによって、甲斐地域の豪族たちはヤマト王権に服従することになり、次第に衰退していったといわれてきました。しかし本稿では、甲斐国造が中央の有力豪族に対して、自氏の一族から<sup>ゆげい</sup>（宮門などの警護に当たる兵力）を奉仕させたり、牧を經營して良馬を貢納していた点に改めて注目しました。たしかに、地方官である国造に任命されることは、ヤマト王権への服属という意味もありますが、その反面、中央と接触・交流の機会を得ることは、地方の豪族にとって自らの本拠地における支配権力の強化につながります。むしろ甲斐国造は、王権が全国展開を目指した国造制という新しい地域支配体制に積極的に参加することで、中央との間に様々なパイプを構築し、それを維持しながら古代国家の形成期を巧みに生き抜いたのではないかと考えています。

#### 著者のつぶやき

2010年度から、科学研究費補助金 基盤研究C「日本古代の国造制と地域社会の総合的研究—国造制研究支援データベースの構築—」に、研究分担者として参加しています。この共同研究では、上記の「論文概要」でも紹介した国造制の研究を進展させるため、基本テキストである『先代旧事本紀』巻10「国造本紀」の写本の校訂、主に江戸時代を中心とした注釈書の収集、関係史料集・文献目録の集成などを行っています。前述の拙稿2本は、いずれもこの共同研究の成果の一部です。来年前半には3年間の総括として、共同研究者と共編で『国造制の研究—史料編・論考編—』の出版を予定しており、現在はデータの最終調整と原稿執筆を進めています。

## 教員紹介 「酒井泰弘」

「鈍（ドン）、根（コン）、運（ウン）」——私の長き研究人生を決めてきたのは、これら三つの「ン」だと思います。戦前の生まれですから、人生の原点はやはり大阪大空襲でしょう。昭和二十年三月には焼夷弾の嵐に襲われましたが、防空壕の中で幼少の私は「魚のフカのようにグッスリ寝込んでいた」とよく笑われました。これが「鈍」の始まりです。神戸大学時代には、当時の経済学の状態に失望し、気分転換をかねて理学部数学科に日参しました。「経済の学生なのに、何故トポロジーを勉強するのかね？」と数学の先生から不思議がられました。これが何を言われてもへこたれない「鈍な人間」の生き様ですね。



アメリカ留学時代には、それこそ毎日毎日、早朝8時から夜中の2時まで「根をつめて」勉強しました。一日で十本以上の英語論文を読破して、演習報告に備えたこともあります。ロチェスターの「零下二十度、猛吹雪二十メートル」という悪天候の下で、図書館閲覧室の一角を二十時間近く占拠するという「根気」を身に付けることが出来ました。鉄の町ピッツバーグでは真夜中の数時間、後ろから追突したアメリカ黒人との間で「悪いのはお前だ、謝って弁償しろ！」と口喧嘩をする「ド根性」を育てました。

彦根は家内の郷里です。二十年以上も続いた筑波の生活からは、三十五年振りに関西、しかも古い小さな城下町に戻ってくるとは「想定外の出来事」でした。運が良いのか悪いのか、恐らく「運命の悪戯」でしょう。こうして、リスク研究のドクター課程設置に一役買うことになりまして、図らずも親孝行の機会を得ましたことは感謝の極みです。

今や、世界経済は、そして経済学そのものが危機的状況を迎えております。人が病気になれば頼るのは医者です。同じように、経済の調子が悪化すれば、頼るべきものは我が経済学以外にありません。「新しい世紀に相応しい新しい経済学」が構築できる千載一遇の機会でしょうね。年齢のことは暫く忘れて、今一度「鈍、根、運」の相乗作用に期待をかけてみたいと思います。

さかい やすひろ  
名誉教授 酒井泰弘

## リスク研究センター通信

経済学部ワークショップ「フクシマ以降のエネルギーを考える」のご案内

本日下記の要領で経済学部ワークショップ「フクシマ以降のエネルギーを考える」が開催されます。

「311を観る」 綿井健陽映画監督  
日時：6月1日（金）16：10～17：00  
会場：第2校舎棟22番教室

講演の前後の時間に、滋賀大学有志の会による映画「311」の上映があります。

第1回上映 14:35～16:10  
第2回上映 19:15～20:50

（観賞＝学生無料、一般1,000円）

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

問い合わせ先：経済経営研究所 TEL:0749-27-1047



### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

\*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

( <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12> )

\*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

**発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター**

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、  
柴田淳郎、得田雅章、宮西賢次、山田和代**

**滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）**

**〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189**

**e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)**

**Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>**